

2018年漁業センサス調査結果の概要【速報】

大阪府総務部統計課 産業構造グループ

《詳しくは大阪府ホームページに掲載しています。http://www.pref.osaka.lg.jp/toukei/gyogyou_s/index.html》

平成30年11月1日現在で実施した2018年漁業センサスの海面漁業調査に係る漁業経営体調査の大阪府の主な集計結果は次のとおりでした。

※「漁業経営体」「漁業種類」「漁業就業者」などの用語の意義については、大阪府ホームページを参照してください。

1 漁業経営体数

(1) 漁業経営体数（府全体）

大阪府の漁業経営体数は519経営体で、平成25年調査(以下「前回」という。)に比べ70経営体(11.9%)減少しました。全国の漁業経営体数は79,142経営体で、前回に比べ15,365経営体(16.3%)減少しました。(表1)

表1 漁業経営体数の推移

調査年	大阪府		全 国	
	経営体	増減率(%)	経営体	増減率(%)
平成15年	712	-	132,417	-
20	668	-6.2	115,196	-13.0
25	589	-11.8	94,507	-18.0
30	519	-11.9	79,142	-16.3

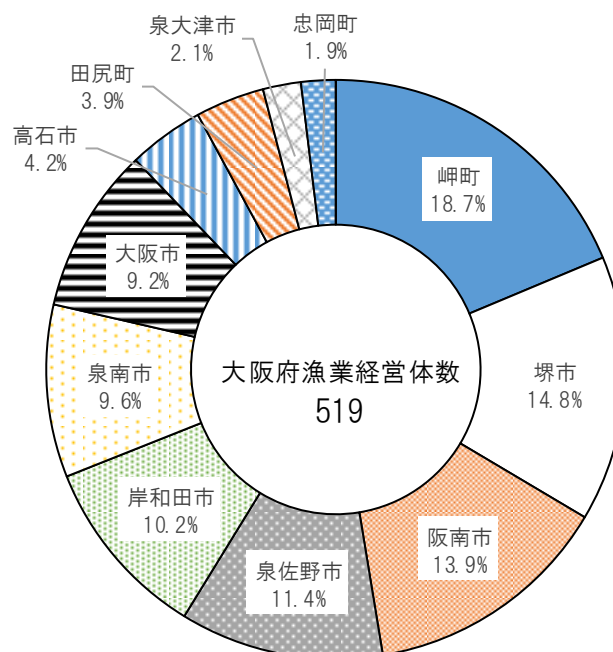
(2) 漁業経営体数（市町別）

漁業経営体数を市町別にみると、岬町が97経営体で最も多く、次いで堺市の77経営体、阪南市の72経営体の順となっています。また、この順位は前回と変わりません。(表2及び図1)

表2 市町別漁業経営体数

	平成25年	平成30年
大阪府	589	519
大阪 市	49	48
堺 市	83	77
岸和田市	70	53
泉大津市	12	11
貝塚市	-	-
泉佐野市	72	59
高石市	20	22
泉南市	65	50
阪南市	78	72
忠岡町	9	10
田尻町	22	20
岬 町	109	97

図1 市町別漁業経営体の構成比



(3) 販売金額第1位の漁業種別漁業経営体数

漁業経営体数を販売金額第1位の漁業種別にみると、「その他の刺網」が171経営体（構成比32.9%）で最も多く、次いで「小型底びき網」の131経営体（構成比25.2%）、「その他の漁業」の105経営体（構成比20.2%）の順となっており、この3種類で全体の約8割を占めています。

前回と比べると、「中・小型まき網」を販売金額第1位とする経営体がなくなったものの、全体の構成比に大きな変化はありませんでした。（表3）

表3 販売金額第1位の漁業種別経営体数

漁業種別		平成25年		平成30年	
		経営体	構成比(%)	経営体	構成比(%)
計		589	100.0	519	100.0
網漁業	小型底びき網	140	23.8	131	25.2
	船びき網	50	8.5	46	8.9
	中・小型まき網	4	0.7	-	-
	その他の刺網	201	34.1	171	32.9
	小型定置網	9	1.5	9	1.7
釣	ひき縄釣	9	1.5	7	1.3
	その他の釣	41	7.0	41	7.9
潜水器漁業		7	1.2	3	0.6
採貝・採藻		2	0.3	3	0.6
その他の漁業		124	21.1	105	20.2
海面養殖	わかめ類養殖	-	-	1	0.2
	のり類養殖	2	0.3	2	0.4

※表中の漁業種別には、二つの調査年について経営体数の数値が得られた漁業種別のみを掲載している。

2 漁業就業者数

漁業就業者数は870人となっています。

年齢階層別の構成比について全国と比べると、59歳以下の4つの階層で大阪府が全国よりも高く、60歳以上の2つの階層で全国よりも低くなっています。（表4）

表4 年齢階層別漁業就業者数

		大阪府		全国	
		漁業就業者(人)	構成比(%)	漁業就業者(人)	構成比(%)
計		870	100.0	152,082	100.0
区分	15～29歳	105	12.1	10,459	6.9
	30～39歳	104	12.0	16,471	10.8
	40～49歳	167	19.2	21,073	13.9
	50～59歳	188	21.6	27,762	18.3
	60～69歳	119	13.7	39,227	25.8
	70歳以上	187	21.5	37,090	24.4